

16 ニービチ由来（イ）

昔、大昔の話になるが、そういう時代は、沖縄ではカーサヌハー世ウヰといつて。

妹と兄貴と二人暮らして、世を過ごさんためには是非これを自分の女房にせんといかんて。それで、一回逃がして。それでまた、二回も逃がして、思い切つて三回目には、またも森の中逃げて行つたから、追つかけて行つて、後ろから引つ張つた場合には、もう掴む物がないから、指ぐらいの大きさの木を掴んで、

「いやだ、いやだ」とやつておるが、力入れて引つ張つたもんだから、ありや女は両手で掴んでおるさ。だから、根っこから引き抜いたから、今度は名前を根引ニギミちになしたんです。結婚式には。

それで、今でも、津堅島といつたら通常は広っぱに津堅島、久高島、小さい島がある。あつちであつたという話もあります。それで、今でもそのところの人はその習慣で、今度は嫁貰いに行つたら、男のほうから

嫁貰いにこつちに来た場合は、女は三日間逃げる。三日間逃げて、それで会わすようになってもいた。

字北波平 大城清助

